

クラフトピクニックを
楽しもう!

memo



毎年10月に開催されているクラフト
ピクニック。

「こどもと こどもだったおとなの あおぞらこうさくつ」

集まってきた来場者は、モノがつくられていく過程を知り、手を動かして生み出されることを体感することができる。

そんな日常を取り巻くモノがつくられる非日常な状況をこの上なく楽しむために、ピクニックのスタッフに「ピクニックの楽しみ方をおしえてちょうだい!」してみました。



それかもう濡れてもいい強靭な精神で!

『服装で気にすることってある?』

●暑さ寒さの対策。そして雨対策かな。直前の天気予報チェックはもちろんだけど、10月なのに暑いつてどうなの?! っていう年もあったり。

レイヤード(重ね着)は大事な。気軽に脱ぎ着できるしね。あと、雨対策については、足元はブーツ、長靴色々あるけど、ちょっと座りたいと思つと芝生の上。雨上がりは油断するとお尻が濡れるから、レジャーシートは大事な。

○そつえばフェアのスタッフは野鳥の会レインブーツを愛用してるね。笑
大当たりのピクニック日和もあるけど、暑いか寒いか割と両極端。天候見ての備えが大事だよな。



雨でも揃ても降っていい

『忘れちゃいけないものってある?』

●好奇心かな。

どうも、世の中は5月のフェアと10月のピクニックが一緒になって、フェアの感覚で来るとちょっと戸惑う人が多いと感じます。フェアの感覚で来た人も、好奇心があれば実演やワークショップ、出展者との会話などに興味が広がるような気がする。

○フェアよりもピクニックの方が出展者と話しやすい環境だなんて思うね。あとピクニックしてるようなのんびり空気も漂ってるし。ピクニックはコミュニケーションを楽しむイベントだね。

ピクニックのスタッフもワークショップにお客さんとして参加してるし、これつくつたの! ってキャッキャしてるのも、いいなあって思う。

ちょっとした気持ちをプラスするとイベントを抜かりなく楽しむことができるみたい。今回のピクニックからの参考にしてみて下さいね。普段の10倍くらい楽しめるんじゃないかしら? と思いきす!



それはね、いいよ

『あなたのこだわりは何ですか?』



あいのまよのんです

黎明期よりフェアを支え続ける松本木工クラシカルの一人、谷口泉さんに一言インタビューをしました。

○谷口さんのこだわりって何?

●「こだわらないこと」かな。

フェアでは大勢の人が賑わう谷口さんのブース裏休憩所で、五月の爽やかな空気を感しながら谷口さんはそう答えた。

○どうしてのこと?

●昔はずーっとこだわっていたんだよ。自分が使いたいもの、美しいと思うものを作っていた。人のために作っていかつたんだ。

○なるほどね。

●気付けば「人のために仕事をしたいなあ」と思うようになっていた。「こだわり」を捨てるにはどうしたらよいかを考えた。つまり「こだわること」にこだわっているだけだね。

○こだわることは「つくる人」にとって永遠のテーマだもんなあ。

●こだわるのが当たり前だったし、いいと思えるところに落ちてきてきたけど苦しいこともある。そんなこだわりをやめて「こんな風になりました」から「こんな風にできました」になったんだよ。こだわっていたら人の意見はきけないし。だから人の意見をきいて並べた。一つのことを続けていくのは面白いんじゃないかと思え、ちがいが抜けた。やらなきゃ越えていかないと、頑張りながらこだわりから抜けていくしかないんだよね。

さすが「つくる先輩」はもつと上の世界で生きている。私はまだこだわりの中にいるし、こだわりを外から見ることができていない。人生における一つのいいキーワードが聞けたな、と思った。

○ありがとつ、谷口さん。

●はい、またね。

インタビュア前よりいい顔になった私は、そのあといろんな作家に声をかけフェアを楽しんだのであった。